

「SHARP」がワイヤレスイヤホンスタイルの耳あな型補聴器を発売

電化製品のイメージが強いシャープ株式会社が、補聴器事業に参入し9月に補聴器を発売することを発表しました。今回のものは軽中等度難聴がターゲットになっています。

見た目はワイヤレスイヤホンそのもので、スマートフォンと連携して遠隔で認定補聴器技能者や言語聴覚士の資格をもったフィッター（調整者）による調整を受けられる、ワイヤレスイヤホンとして音楽鑑賞やハンズリーフオンとしても使える、価格が比較的安価（希望小売価格は99800円、2個セット）、充電式・ケーブルレスでPCからも充電可、などを売りにしています。発表されているスペックを見る限りでは、持ち運びや保管、見た目や使い勝手などはワイヤレスイヤホンそのもの（イヤチップも）という感じです。既にネットショップでは予約を受け付けており、発売日は9月17日とのこと。

耳あな型補聴器「メディカルリスニングプラグ」



※シャープHPより

《性能》

メーカー発表のデータでは、チャンネル数が8、最大音響利得はピークで48dB、ハウリング防止やノイズリダクション有り、メモリ4、使用時間はモードにより6～20時間、本体は1個5.8g。

ただし、購入後60日間はリモート調整などのサポートが受けられますが、その後はオプション購入が必要となるそうです。

《感想》

最近のワイヤレスイヤホンの音質・性能向上や普及具合を考えると、補聴器そのものや価格に抵抗がある軽度難聴の方にとっては、聞こえについて意識できるきっかけとなる可能性は感じます。価格的にも、良いものならワイヤレスイヤホンだけでも35000円はするところ、両耳で10万円を切ることは魅力です。

ちなみに障害者総合支援法では、高度難聴用耳かけ型（軽中等度難聴者向け）の価格は1つ43900円、それにイヤモールド1つ9000円が加わるので、単純計算では10万円以上となります。実際に購入・使用する際には、軽中等度難聴児への助成を受けたり、身体障害者手帳による補装具補助を受けたりで自己負担は1～3割程度で済みます。しかし、手帳をもっていない場合は18才を越えると自分で購入していかないといけない例がほとんどだと思われます。

また、音が入りやすくなったからといって、自身による簡易調整や頻繁にはできないリモート調整だけでは客観的な聞こえの確認が不十分だと思われることや、音の大小だけではない「難聴そのもの」の理解や対応・自身の社会生活等について、聾学校や補聴器販売店・病院等の人とかかわってこそ効果がある部分について希薄になってしまう恐れがあること、は懸念されます。補聴器業界の方にとっても、こうした動きは脅威になっていくかもしれません。

どちらかといふところ十数年は、世界の補聴器メーカーで統合や撤退が続いた印象がある中、新規事業としてシャープが参入したこと、そして「音にかかわるデバイス」の分野は今後もさらなる展開があるかもしれないことは、注目すべき点だと思われます。（※音響デバイスとしては、以前から発売されている「骨伝導イヤホン」も、伝音難聴の子にとってはある意味新たな選択肢の1つだな、と思いつつながら電器屋の視聴・体験コーナーを時々ぞいでいます。）

私たち聾学校としては、新しい情報をふまえ、単純に飛びついたり敬遠したりすることなく、難聴児・者にとってのメリットとデメリットをしっかりと判断し、子どもたちにとってプラスになるようにしていかなければいけないと感じます。